

「公務員試験体験記」

森林緑地環境科学科 4年 Aさん

これから就職活動を始める皆さんに、この体験記が少しでも参考になればと思い、私の経験をお伝えしたいと思います。

私は、林業職の公務員を志望し、国家公務員試験と地元の県庁の試験合格を最終目標に据え、就職活動を行いました。その結果、国家公務員試験(総合職)の森林・自然環境区分に合格することができました。

本格的に就職活動を始めたのは大学3年の5月からです。公務員講座を受講していたため、そこでの映像授業や模試、過去問を活用することで一次試験対策を行いました。8月からは県庁のインターンシップに参加し、将来自分が働くイメージを明確に持つことができました。インターンシップの経験は面接試験にも生かせるため積極的に参加することをお勧めします。

実際の試験についてですが、私はかなりイレギュラーだったと思います。「そういう人もいるのか」程度に読んでください。はじめに受験したのが4月から始まった国家公務員(総合職)でした。4月と5月に一次試験と二次試験があり、合格すると官庁訪問に進めるという流れでした。正直、私は合格できると思っておらず、試験慣れの感覚で受験しました。実際に試験当日になるまで受験するか迷っていたくらいです。一次試験合格後も、二次試験後も辞退するか相当悩みました。理由としては、あくまで第一志望は県庁であり、国家公務員(総合職)の官庁訪問期間と県庁の一次試験が被っていたことでした。総合職の官庁訪問は二次試験に最終合格しても半数以上が落とされ、自分自身の準備不足も感じていたため、かなりの不安要素でした。そんな中、支えてくれたのが同じ公務員志望の仲間と公務員講座の方々でした。最終的には県庁の一次試験と国家公務員(一般職)の二次試験を辞退し、国家公務員(総合職)の林野庁に合格できました。一年前は第一志望の一次試験すら受験しないなんて思っていませんでした。ただ、後悔のない選択はできたと思っています。

最後に、就職活動を通して感じたことをアドバイスとしてお伝えします。

①深掘りする

自分の志望動機や将来携わりたいことなど深掘りしてください。時間はかかりますが視野が広がり必ず試験で役に立ちます。自分の人生です。一つの意見に拘り過ぎないでください。

②人と比べない

公務員講座の受講生など同じ志を抱く人が多くいます。言ってしまうとライバルです。周りに感化されて努力できればいいですが、周りとは比べて卑屈になるのは避けてください。そのような時は頼れる人に相談することがお勧めです。

これから1年間辛いことが多いと思いますが、最後まであきらめず頑張ってください。

就職活動体験記

海洋生物環境学科4年 Bさん

私の就職活動は学士3年の前期から始めました。インターンシップに参加した企業の早期選考で内定をいただき、他の人よりも少し早めに就職活動を終えました。就職活動を経験して、私が大切だと思った点を3つお話しします。これから就職活動を始める皆さんに、私の就職活動の経験が参考になれば幸いです。

① 準備は早めに行う。

私が最初にとりかかったのは、働くイメージを具体的に持つことでした。例えば、将来何をしたいのか、どんな仕事をしたいのか、勤務地などです。その後、イメージから決めた条件を基に企業を調べ始めました。条件に合う企業にはどんな企業があるのかを知るためです。企業はたくさんあるので、調べるだけでも多くの時間がかかります。私は業界を決めずに探し始めてしまったので、毎回長時間かかっていました。また、企業によっては選考にテストがありますので、テストの対策も必要です。中でも最も時間をかけたのは自己分析です。自己分析では多方面から自分を見つめ直し、深く考えるため時間がかかります。スムーズに就職活動を始めるために早め早めの準備がとても大切だと思います。

② 気になる企業のインターンシップに参加する。

気になる企業がある場合、インターンシップには参加したほうがいいと思います。私は、インターンシップから選考は始まっていると思います。インターンシップに参加した人たちの中から早期選考に声かけられることも少なくありません。実際に私もそうでした。インターンシップに参加すると顔や名前を覚えてもらえますし、人事の方と話すことができるため、より深く会社の雰囲気を知ることができます。私は、インターンシップに参加した企業から就職先を選ぼうと思っていたため、複数の業界、企業に参加しました。声をかけていただいた企業の中から自分と合う企業を選んで選考を受けました。

③ 周りの人に頼る。

就職活動は人に頼ることがとても大切です。私は、先輩にエントリーシートの添削をしてもらったり、面接について話を聞いたりしていました。就職活動を終えたばかりの先輩の話はためになることばかりでした。また、両親に面接の練習に付き合ってもらったりもしていました。両親に面接の練習を頼むのは恥ずかしかったのですが、率直な意見をもらえるので私にとってはいい練習になりました。面接では自分の言葉伝えることがとても大切です。私が経験した面接では、志望動機などの用意できる質問ではなくそれ以外の個人に関する質問が多かったです。用意できない質問が多くあったため、臨機応変に自分の言葉で伝えることが大切だったと感じています。それができたのも、面接練習をたくさんお行ってきたためだと思うので、周りの人にたくさん頼ってください！

私の就職活動はこのように進みましたが、就職活動は人それぞれだと思っています。就職活動は大変だと思いますが、後悔の無い選択ができるように頑張ってください。

「就職活動体験記」

畜産草地科学科 4年 Cさん

私は第一志望であった地元の兵庫県庁農学職の内定を頂きました。これから就職活動を始めようとしている皆さんに、少しでも私の就職活動の経験談が役立てばいいなと思います。

私は3年時から第一志望が公務員で、公務員講座にも週に3回通っていました。そんな私が自分の就活を今振り返ると、最も重要だと感じたのは3年夏に行った宮崎県庁農学職のインターンでした。当時から兵庫県庁が第一志望だったのですが、日程や通いやすさを考慮して宮崎県庁のインターンに応募しました。応募する際に自己アピール、志望理由など後々必要になるエントリーシートの練習が早い段階で出来たことは大きな経験でした。

宮崎県庁のインターンは月曜日から金曜日まで5日間ありました。公務員志望ではあったのですが仕事内容、組織としての仕組み、部署についてはあまり理解していない状況でした。農学職には大きく3つの仕事があり行政、普及、研究と分かれており、インターンではこの全てを体験することが出来、就活において非常に有益な経験でした。またインターンは自分を入れて8人でおこなったのですが大学も様々なメンバーが集まっておりインターンを通して仲良くなりインターン後も就活の情報共有やプライベートでも連絡を取るようになり交友関係を広げるという観点でもいい機会でした。

公務員試験に関しては週3回の講座をこなしつつ専門科目は自分で計画をたてながら勉強していました。その際にメリハリをつけるというのを重要視していました。具体的にはアルバイトと勉強の両立です。アルバイトに集中する日、勉強に集中する日を作り自分の性格的に1つのことに集中した方が効率上がるので勉強の日は1日研究室で勉強していました。

自分は緊張しやすい性格で初めての民間企業の面接は緊張でほぼ記憶がありません。自分の性格は理解していたので本番の兵庫県庁農学職の面接試験の前に面接試験がある宮崎県庁の行政特別枠など受けられるものは受験し面接に対する慣れと経験を得ることができました。また面接試験を受けていくにあたり自分が感じたのは話す内容と同程度にハキハキ話すことや笑顔で受け答えすることが重要だと感じました。もちろん人によってはヘラヘラしているなどのマイナス点としてとらえられるかもしれませんが、このことを意識することで面接官の方に明るくハキハキ話して話しやすいと民間や兵庫県庁の試験でも言っていただき、自信につながりました。

最後になりますが、就職活動はつらいことも多く悩むことが多くなると思います。しかし、その努力は必ずどこかで自分の助けになってくれます。自分を信じて頑張ってください。皆さんの成功を心よりお祈りします。

就職活動を終えて

獣医学科 6年 Dさん

獣医学科で学んでおられる皆さんは、一口に獣医師と言っても幅広い進路があることは既にご存知だと思います。私の先輩には、他大の大学院に進学されてから留学された方、牛が好きでゆくゆくは大動物に関わる仕事をしたいが、まずは少しでも若いうちに小動物臨床獣医師としても働いてみたいとのことで小動物の動物病院に就職された方、動物行動学に興味があり専門としたいが、今後はヒトの心理学も勉強してオーナーの気持ちも理解できるような獣医師になりたいという方もいらっしゃいました。

私は特別珍しくありませんが、地方自治体の公務員獣医師を志望して就職活動を行いましたので、一つの事例としてご紹介します。地方自治体の公務員獣医師を志望して驚いたことは、自治体ごとに募集の時期や試験内容が全く異なるということです。就職説明会などで複数の自治体の説明を聞いたのですが、毎月募集があるような自治体もあれば、複数回募集するかは結果次第といった自治体もありました。また、試験内容についても、教養試験やSPI試験と面接を実施する自治体や、オンライン面接のみで合否を決定するという自治体もあるようでした。ですので、自分の地元の近くなど志望する特定の自治体がある方は、とりあえず募集時期と試験内容を確認した方がいいと思います。私は地元に近い自治体に就職したいと考えていたので、5年前期に開催されたオンライン説明会に参加し、何となくどのくらいの時期に募集があるかを把握しました。5年の春休みには昨年度の募集要項をみて、試験内容について確認しました。私の場合は6年前期のオンライン説明会にも志望する自治体に参加されていたので、募集開始時期などを簡単に知ることができましたが、そういった機会がなければ、こまめにウェブサイトの確認といった情報収集をする必要があると感じました。私の志望する自治体は教養試験、小論文、面接を2日間で実施するという試験内容でした。教養試験は一応対策本などに目を通したのですが、結局本格的に対策できないまま、本番は直感で勝負しました。小論文は公務員獣医師として取り組むべき課題といったテーマで、60分間文字制限なしの原稿用紙ではない罫線のみを用紙に記入するものでした。小論文はどういった問題が出題されるのか知らず、行政など他の試験区分の公務員試験過去問を参考に対策していたので、獣医師に関連した出題で想定外でしたが、何とか文字数を稼ぎました。また、鉛筆を使って文字を書くのが久しぶりで時間がかかってしまったので、もし同じような状況の方がいらっしゃったら、事前に長文を書く手慣らしをするのも一案かと思います。面接はおおむね事前に提出していた面接カードに沿った内容でしたが、動物の殺処分業務に携わることができるか、といった自分にとって想定外の質問もありました。しかし、その点は公務員獣医師を志すのであれば、一度は考えておく必要があることだと感じました。幸運にも私のような学生でも採用して下さる自治体があったので、これまで勉強させていただいたことを活かして多くの人のお役に立てるように、今後も頑張っていかなければと決意を新たにしています。以上です。皆さんがそれぞれの道を元気に楽しく歩まれることを祈っています。